

## モチモチの木

～ことばに着目して豊かに読もう～

国語部

升村 誠志

場 所 3年南組教室

1. 日 時 平成19年2月9日(金) 第1時限(9:00～9:45)

2. 学年・組 第3学年南組(39名)

3. 研究課題 ひとり学習(書かれている言葉に着目し、自問自答を繰り返し、自分の考えを膨らませ、まとめること)をすることによって、音読や聞き合い活動等において、より豊かで確かな読みをすることができるか検証する。

### 4. 授業づくりの視点

#### (1) 教材分析

主人公「豆太」の様子や心情が民話調の語り口、美しい挿絵等により、想像しやすく、ひとりで教材を読みすすめていく「ひとり学習」に適している。また、書かれている表現にも特徴があり、共同学習での話題を設定しやすい教材である。

「モチモチの木」で設定されている背景は、児童のおかれた環境とはかけ離れており、馴染みのない言葉も多く出てくるが、①民話調のあたたかい語り口で書かれていること②5つの場面から構成され小見出しがついていること③場面ごとに美しい挿絵が入っていること等から、じさまと二人で暮らす豆太の心情を読みとり、共感したり、自分の考えにまとめたりすることが容易である教材である。ひとり学習においても、共同学習をすすめる際の話題づくりにも、大きな抵抗無く進めることができる教材である。

また、語り手の気持ちが「まったく、豆太ほどおくびょうなやつはない。」「五つになって『シー』なんて、みっともないやなあ。」の文のように直接文章に表れている点が特徴的である。同様に「ー」ダッシュにより、語り手の気持ちや、豆太の臆病な様子や気持ちを想像することができる点や、「豆太ほど」「せっちゃんぐらい」といった強調によって豆太の臆病さを想像しやすくしている点も特徴としてあげられる。「空いっぱいのかみの毛」「霜が足にかみついた」というような擬人化を用いた情景描写は、場面の様子を豊かに想像させるとともに、豆太の心情も表現している。さらに、豆太が医者様を呼びに走る場面では、比喩、短い文の積み重ね、倒置法を使うことにより豆太の勇敢な行動を緊迫感あふれる文体で感動的に表現している。このような特徴のある表現方法を見つけやすく、繰り返し語られる豆太の臆病さに対してや、臆病な豆太のといった勇敢な行動に

対して、親身に感じ、様々な感想を持つことができると思われる。

## (2) 児童の実態

本学級は、発表が得意な児童が多く、活発な授業が展開されているように見える。しかし、自分の意見を述べるとそれで満足し、友だちの意見を聞くことができなかつたり、想像するもとなるものが「ことば」や「文章」に基づいたものではなく、読みに深まりが持てていられないことも多くある。また、発表していない児童の中には、自分なりの考えを持っていない子、自分の考えをどう書き表したらいいのか分からない子もいる。

そこで、1年間を通して、「自分の考えを持つこと」「ことばに着目すること」をキーワードに学習をすすめた。あわせて、「学習の仕方を学ぶこと」も大切にしてきた。

物語教材では、ことばに着目しながら、場面の様子や登場人物の心情、物語の書きぶり（工夫）を見つけ、線を引いたり、音読・視写・動作化をさせたり、ノート・ワークシートに書き込んだりした。そして、分かったことから考えたこと・思ったことをまとめるようにさせた。また、発表についても、「ぜひ発表してみたいこと」「みんなと考えたいこと」を意識させ、「友だちの意見につなげること」を意識させた。

まだまだ、読解や表現については差があるが、ことばから読み取ったことを発表し、それにつなげた発表ができるようになってきた。また、発表できなかった児童も学習の振り返りの感想では、自分の考えと友だちの考えを比較したものが持てるようになってきた。さらに、ひとり学習をすすめると教師が個別に対応することができる時間が持てる。個々に関わることで、学習の仕方が分かる児童や、自分の考えに自信を持ち、次の時間には発表してみようという児童が増えてきた。

しかし、まだまだ読解が叙述をもとにしていない、話題にしていることから外れた発言も多くあるなど、話題を焦点化しきれず、豊かで確かな読みに至っていない。

## (3) 指導にあたって

「モチモチの木」は、教科書では「学習したことをいかして」という単元名がつけられている。児童がこれまでに積み重ねてきた学習体験をもとにして、自分の力で学習活動を進めていくように設定してある。

しかし、まだまだ自分の力だけで読み進めていくことは浅い読み取りになると思われる。やはり、ことばに着目した丁寧な読み取り、書き込み、友だちとの交流という流れがあつてこそ、深い読み取りができるし、音読や他の作品への興味、豆太への手紙、新聞づくりなどの表現したいことが生まれてくると考える。

そこで、今までと同様に教材を丁寧に読み取る学習を大切にしたい。じっくりと教材にひたることが、その後の表現することにもつながると考える。ひとり学習では、今まで学習してきたことばに着目しながら、場面の様子や登場人物の心情を読み取らせたい。その上で、本単元では自問自答を意識させたい。そして、共同学習では、児童ひとりひとりが、ひとり学習で取り組んできたことを生かすため、話題の設定を児童と共にすすめていきたい。

このように読み深めることができた後、まとめの学習でどのように表現するか考えさせたい。ここでは、様々な表現の仕方が出てくると考えられる。教師からの支援、友だち同士の交流も大切にする。限られた時間内での取り組みとなるため、時間について意識するよう計画を考えさせたりもしたい。

## 5. 単元の目標

- 学習してきたことを生かして、「モチモチの木」の教材を読み進めること、表現することができる。(関心・意欲・態度)
- 場面の様子や主人公「豆太」の心情を、叙述をもとに想像しながら読むとともに、物語の工夫に気づくことができる。(読むこと)
- 場面の様子や主人公「豆太」の心情や自分の考え・まとめを、分かりやすく書き表すことができる。(書くこと)
- 読み取ったことについて、自分の考えをまとめ、友だちとつなげて話すことができる。また、自分なりの表現手法で、自分の考えが相手に伝わるように話すことができる。(話すこと・きくこと)

## 6. 評価の観点

### (1) 関心・意欲・態度

めあてを持ち、音読、動作化、ひとり学習等の活動を積極的に取り組むことができる。

### (2) 読むこと

特徴のある表現に気づき、それをもとにして、場面の様子や心情、物語の工夫を読み取ることができる。

### (3) 書くこと

読み取ったこと、そこから考えたことを整理し、分かりやすく表現することができる。

### (4) 話すこと・きくこと

読み取ったことを、話題や目的に応じて分かりやすく伝えることができる。また、聞き取ったことに対して、自分の考えと比べ適切な反応をすることができる。

## 7. 指導計画 (全18時間)

- 第1次 「モチモチの木」の全文を読み、学習の構えを作る。(2時間)
  - ・範読を聞く、全文通読、意味調べ、学習のめあてを持つ、感想を書く
- 第2次 「モチモチの木」の場面ごとに、ひとり学習と共同学習をする。(10時間)
  - ・「おくびょう豆太」のひとり学習と話題設定(1)、共同学習(1)
  - ・「やい、木い」のひとり学習と話題設定(1)、共同学習(1)
  - ・「霜月二十日のぼん」のひとり学習と話題設定(1)、共同学習(1)
  - ・「豆太は見た」のひとり学習と話題設定(1)、共同学習(1・・・本時)
  - ・「弱虫でも、やさしけりゃ」のひとり学習と話題設定(1)、共同学習(1)
- 第3次 発表会に向けて、学習をすすめる。(6時間)
  - ・「モチモチの木」で学習してきたこと、感想を交流し、発表方法、学習計画を立てる。(2時間)
  - ・資料の作成、発表練習、交流をする。(2時間)

- ・発表会，振り返りをする。（2時間）

## 8. 本時について

### (1) 目標

- ・豆太の医者様を呼びに走っている様子や看病の様子に着目し，聞き合い活動をするなかで，豆太のじさまを思う気持ちの強さを，読み深めることができる。

### (2) 展開

児童の学習活動	指導上の留意点	評価の観点と規準
1. 今までの場面の豆太について振り返る。	○前の場面までに書かれてきた豆太の臆病さを押さえさせる。	<b>観点(2)(4)</b> ノートを見たりしながら，臆病な豆太について発表している。(発言)
2. 本時の学習課題を知る。	書かれていることばをもとに，豆太の気持ちを詳しく読みとろう。	
3. ひとり学習でまとめた自分の意見を発表し，聞き合う。友だちの意見から，考えたことを発表する。 ・じさまの様子 ・豆太の医者様を呼びに走る様子 ・豆太の看病する様子 などの叙述をもとに，豆太のじさまを思う気持ちを考える。	○児童の考えを整理し，分かりやすい板書する。 ○キーになる叙述「表戸を体でふっとばして走った」「なきなき走った」「もつとこわかった」「豆太は，その後は知らない」などが出てくるような投げかけをする。出てきた際は，丁寧に取り上げる。出てこない場合は，こちらから考えさせる。 ※効果的な視写，音読，書き込みを入れる。	<b>観点(1)</b> 本時の課題を知り，積極的に考えようとしている。(態度) <b>観点(4)</b> まとめたことをもとに発表している。また，友だちの意見と比較し聞いている。(発言)(態度) <b>観点(2)(3)</b> 友だちの意見を聞き，新しい視点を持ち，考えることができる。(ノート・発言・音読)
4. 本時の振り返りをする。 ○感想を書き，発表する。 ・豆太のじさまを思う気持ちが強いことが分かった。 ・無我夢中で走ったことが分かった。 ・豆太は勇気があるとは思っていない。 などの感想を持つ。	○板書をもとに，学習の整理をさせる。 ○机間順視をし，個別に指導する。 ○共同学習をしたことで，読みが深まったことを意識させる投げかけをする。	<b>観点(2)(3)</b> 学習したことを整理し，まとめることができる。(ノート) <b>観点(4)</b> 本時の感想について，ノートをもとに発表することができる。(発言)